

海防彙議二編補

十三

音外音冊

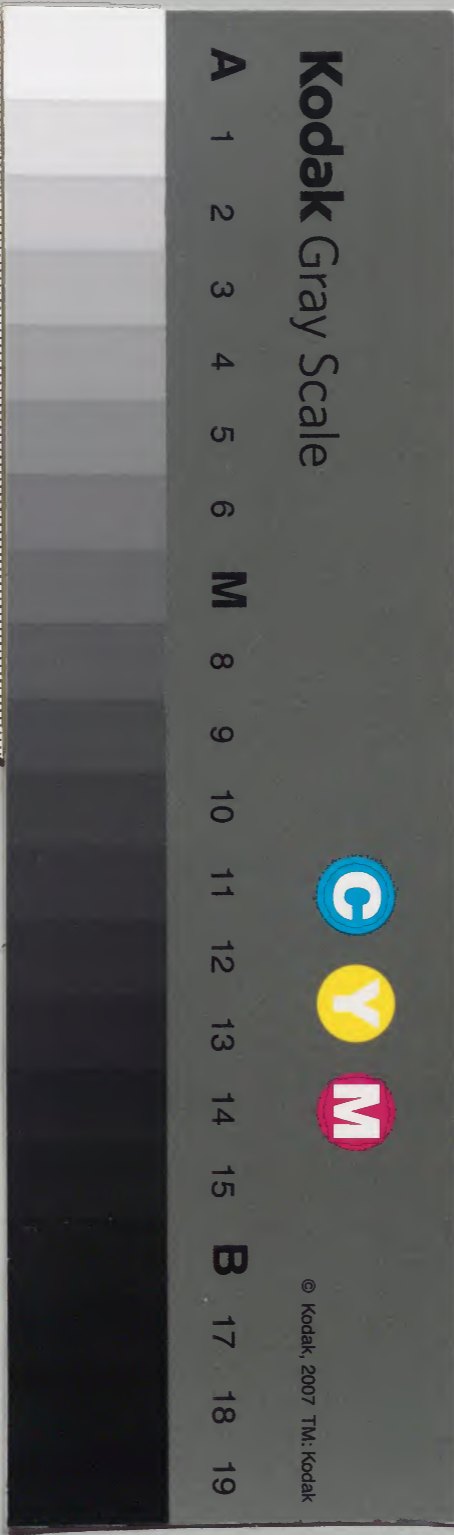
音外音冊

和書門類		二四八四〇號	六七〇號	三八架	一八冊
------	--	--------	------	-----	-----

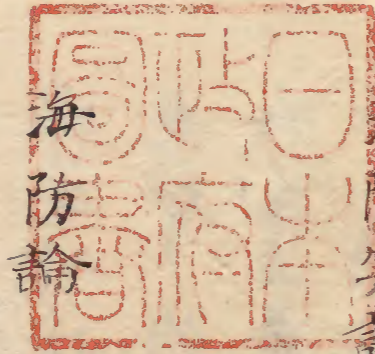
和書類		二四八四〇號	一八冊	一八冊	一八架
-----	--	--------	-----	-----	-----

內閣文庫		番號	和 24840
		冊數	18 (13)
		函號	189 397

音外音冊



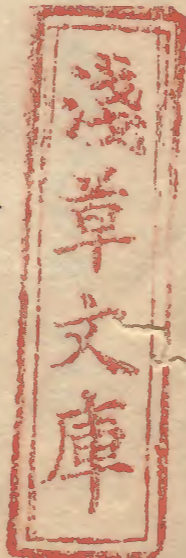
海防彙議補卷七



主本一

天下ハ天下ノ天下ニメ一人ノ天下ニ非ス故ニ
堯ハ之ヲ舜ニ譲リ舜ハ之ヲ禹ニ譲ル讓ラント
欲スト虽讓ルヘキ徳ノ人ナケレハ則チ其徳ア
ル子ニ譲ル故ニ禹ハ啓ニ譲リ湯武ハ太甲成王
ニ譲ル是也我朝四海一王千載一帝全世界中ニ

松園主人編纂



赤井巖三

比等スヘキ者ナシ然レ氏是ヲ一人ノ天下ト思
フ片ハ乱臣賊子篡逆ノ患アリテ外夷窺窬ノ端
ヲ啓クヘシ故ニ天下ハ天下ノ人ノ天下ニメ公
道ヲ以テ私ナク君上懐ヲ曠フメ誠実ヲ下ニ体
シ人ヲ疑スメ能ク是ヲ容ル、片ハ君臣一体ト
ナリ外ヨリ覲ニヘキ間隙ナカルヘシ我邦

神武ノ往古ヨリ封建ノ制ヲ以テ国造アリ

天智ノ朝ニ国司ヲ置キテ郡縣トナシ天運循環
一與一衰藤氏權ヲ縱ニメヨリ天子ハ虚器ヲ擁
ス保平以後ハ武將推ヲ握ツテ藤氏マク虚器ヲ

擁ス鎌倉氏霸府ヲ開シヨリ四海ノ号令一手ニ
出ト垂其權ハ北條氏ニ在テ霸府ハ亦虚器タリ
足利十三世ノ伯業最盛ナリト垂其權其器並ニ
虚ニ屬シ英雄ノ碁峙確据不期シテ再ヒ封建ノ
勢トナリ戰鬥歳ニト三百年四海ノ乱極ルケ生業
トス其ヲメ間暇ナラシムレハ驕恣傲慢ヲ生ス
其ヲメ富饒ナラシムレハ非望不軌ヲ謀ル則チ
其強暴至ラサル所ナシ豊太閤天資明敏蚤ク時
運ト時勢トヲ洞見メ奇笑雄畧ヲ以テ諸侯ヲ太
伍ニ聚テ其君子ヲ質タラシム且之ヲ遠往ニ役

シ之ヲ土木ニ役シ其強暴ヲ馳スルニ暇勿ラシ
ム 烈祖繼與シ神聖英武ノ資ヲ以テ天下塗炭
ノ久キ人心兵ヲ厭フヲ識ル於是乎深慮スルニ
豊公ノ權宜實ニ強禦ヲ鉗制スルノ術ニ出ルニ
過スト至然凡民ト休息スルニ非レハ虛罟ノ虛
弥虛ニメ救フヘカラズ器ノ器タルモ亦泯焉ト
メ復見ヘカラス是故ニ姑ク其治襲ヲ以テ諸侯
ヲノ四季年祀ノ例ノ如ク江戸ニ交代メ其妻子
ヲ置ク是其跡ハ霸道ノ詭譎ニ涉ルニ似テ其實
ハ天子ノ翼戴ヲ專務トメ百姓塗炭ノ急ヲ救フ

所以ナリ蓋シ 烈祖ノ意豊公ノ權宜ヲ欽メ是
ヲ以テ諸侯ノ反覆ヲ鉗制スルニ非ス是亦武王
ノ兵ヲ偃セテ民ト休息スルノ意ナリ夫武王ノ
縱馬放牛天下ニ復用サルヲ示スハ用サルニ非
ルナリ之ヲ既其ニ用ヒサル也之ヲ殺戮ニ用サ
ル也乃千其用ヒサルハ乃千後ノ非常ニ用ント
欲ル所以也故ニ武王ノ尸未タ冷カナラサルニ
周公既ニ武侯管仲ヲ討ニ成王東夷及ヒ奄ヲ殘
ス其後召布卒淮夷方叔征荊蠻吉甫伐獫狁以テ
周室中興ス然レハ則昔日縱放ノ牛馬ハ乃今日

ノ要物ナリ昔日偃櫓ノ弓刀ハ乃今日ノ要器也
是ニ由テ之ヲ觀レハ 烈祖ノ豊公推直ヲ治襲
スルハ後世今日ノ非常ノ用ニ立シノントスル
所以ナリ嗚呼 烈祖ノ成業既ニ二百年前ニ在
今日吾人是ヲ感銘セサルヘカラス獨吾人ノ感
銘スヘキノミナラス方今當路ノ人ヨリ士庶ニ
至ルマテ苟 徳川ノ澤ヲ蒙ラン者豈感銘セサ
ルヲ得ンヤ抑夫ノ成業ハ何ヲ以テ知ルマ
烈祖遺訓ニ戒アリ曰我邦昌平久キカ外國動
乱アルカ必ス我ニ戒慎スヘシト是則今日ノ第

一義ヒメ有志ノ士著眼スヘキ所ナリ如何ト十
レハ我邦今日昇平干戈ヲ見サルヲ二百三十年
是一戒トスヘシ満清壬寅ノ外寇動乱是ニ戒タ
リ加之ニ西賊鄂羅斯ノ窺窬ヲ以ス豈亦一大戒
惧ナラスヤ此時ニ當テヤ天下ヲ以テ一人ノ天
下トナスヘカラス若一人ノ天下トナセハ唯其
虚器ヲ雍スルノミニテ其権ハ蜂起群雄ノ手ニ
皈シ四海鼎沸万段尾解ニ神列ノ神州タルヲ未
タ知ヘカラス是故ニ君上已ヲ慮ニメ人ヲ疑ハ
ス天下ハ天下ノ天下トメ 固常神武ノ基業ヲ

曠シカラシメス天運ノ循環ヲ推シ時勢ノ公私
ヲ量リ諸侯ノ海防アル者悉ク藩ニ還シ或ハ三
年又ハ五七年其公役路費ヲ以テ国儲トシ其士
氣ヲ養ヒ其武備ヲ脩メテ以テ非常ノ警衛トシ
其形ハ封建ニメ其制ハ管轄團練シ其跡ハ郡縣
ニ非スソ其用ハ義勇義軍ヲ建テ一國一郷君臣
上下死生存亡ヲ共ニメ我カ神國ニ殉スルヲ今
日ノ急務ナリ昔項藉ハ太公呂后ヲ質トスト虽
終ニ其母ノ死ヲ以テ其子ノ志ヲ一ニセシム我
カ関原ノ役ニ石田三成太閤鉗制ノ質ヲ餌トメ

七雄ヲ招ク 烈祖メ大量諸侯ヲメ悉ク大阪ニ
飯ラシムト岳諸侯 烈祖ノ恩義ニ服メ妻子ヲ
棄テ願ミス於是細川夫人死ヲ以テ其夫ノ忠ヲ
一ニセシム尔王陵ノ母ノ如シ然ラハ則質何ソ
頼ムニ足ラン適ニ以テ人ヲ激メ其鋒銳ヲメ堅
確ナラシムルニ足ルヘシ 大猷大君即位ノ初
諸侯ヲメ各其藩ニ飯シ其為ル所ヲ縱ニセシト
岳諸侯其威徳ニ服メ一人ノ婦藩ナシ嗚呼
烈祖大猷ノ大量アリテ然後ニ天下ノ器九疇太
山ヨリ重カラシム夫如此ノ威徳恩義アリテ然

後ニ北虜西夷ヲモ征スヘシ 亦何ソ今日ノ洋賊
ヲ恐ルニ足ランヤ是我海防第一ノ本旨主業
ナリ

形勢二

治乱興廢ノ形勢ハ一郡一州ヨリメ天下ノ形勢
ニ係ル天下ノ形勢ハ沿海防禦スルヨリ先務ナ
ルハナシ沿海ノ禦防ハ諸侯封建ニ非レハ能ハ
サルヲ二十年前曾テ海防策中ニ論セシ如ク封
建ノ制ナレハ天子ノ命令ヲクモ諸侯各己カ封
内ヲ失ハンコトヲ恐ル、故ニ防禦トハナフヘシ

如何トナレハ外寇寸壤ヲ侵セハ諸侯寸壤ヲ失
フ外虜尺地ヲ掠レハ諸侯尺地ヲ喪フ譬ヘハ豺
狼ノ肌膚ヲ噬カ如シ其意ニ任セテ棄置ハ我肉
場我身斃ル之ヲイカニメ防禦セサルヘケン故
ニ盧國一心封内ト与ニ存込メ死守スヘシ若夫
郡縣ノ守尉令吏ハ官舎ヲ視ルコト逆旅ノ如ク土
民ヲ過スルコト土苴ノ如シ寸壤尺地スヘテ縣官
ノ物ニテ失ヒ得モ我ニ損益ナシ況ヤ刀筆筭胥
ノ敵愾ノ志アル者百中一二ナキヲヤ此論既ニ
二十年前ノ舊説ナレモ近キ天保壬寅ノ滿清ノ

英夷ニ破ラル、フ已ニ適証ナリ我恐クハ我カ
今日ノ形勢モ亦或ハ如此ナルヘシ是故ニ首本
ニ云如ク沿海ノ諸侯ハ四時享祀ノ参勤ヲ免シ
其交代ヲ緩ニメ三年五年或ハ七八年其封内ニ
在テ土民ヲ抚育メ日夜武備ノ怠慢ナカラシメ
且太宰純カ所謂四糸一ノ法ヲ以テ義倉国儲ト
シ江戸交代ノ路費ト其経役ニ当ル財貨トヲ以
テ脩築ニアラハ鍊城銅壘ト見村方角傳等垂經營ニ難カラス
於是乎土堡以テ巨礮ヲ待シ塹溝ヲ以テ大砲ヲ
避ケ礮臺烟墩瞭堞逆舖悉ク嚴重ナラシメ戰艦
トシテモノミヒキク向屋

火技鎧仗 器械悉ク精煉ナラシメ之ヲ積ムト五
七年其餘資ヲ以テ其本城ヲメ七稜八稜トナサ
シメハ今ノ石城ノ巨礮ニ破碎セラレ飛激メ我
兵ヲ毀傷セシムルノ患ナカルヘシ夫如此ニメ
封内肅然民ト共ニ休息メ外夷ヲ待スル餘カア
レハ所謂以逸待勞ノ形勢ト成ヘシモシ方今ノ
形勢ニテハ彼ノ海艦ニテ逸シ我ハ十里二十里
ノ奔走ニ勞ス守ト攻ト趣ヲ替ヘ主ト客トノ辨
倒置ス若シ果メ主客勞佚倒置セハ歲月ノ久キ
凶饉其間ニ投シ疔疫其際ニ行レ財匱ヲ食罄キ

力竭キ人尽ク駭々乎ト人俄羅斯列薩腦特ノ環
海廬赫ノ萊及ヒ淳都^{ホリ}西多^トノ洋中妨海運ノ謀ニ
陷ントス仰々恐ルヘカラスヤ故ニ諸侯タル者
民ト休息メ固儲アマリ有武備精煉ノ虞ヲ以テ
不虞ヲ待テハ海面夷艦掩襲ス凡聊モ驚ヘカラ
ス又容易ニ動ヘカラス其遠近ヲ測リ虛実ヲ量
リ果シテ岨上ヲ窺フマ否ヲ檢メ然後一發鏖粉
スヘシ若夫然ラスメタ、ニ船影ヲ見テ一恐怖
ヲ喫シ其情偽ヲ辨セス空ク菜丸ヲ海中ニ委弃
セハ猾虜ノ物笑トナルヘシ益是等ノ節制処置

ハ諸侯自ラ其地ニ在ニ非レハ威徳顯レス号令
行レス士民守ル所ヲ知ラスメ其志一ナラス其
志一ナラサレハ恐ルヘキヲ恐レスメ恐ルヘカ
ラサルヲ恐ル、ニ至ルヘシ夫恐ルヘカラサル
ヲ恐レテ寇ノ来ルト来ラサルトヲ論セス沿海
諸侯ノ戍兵一年三百六十日日ヲ曠フシ臂ヲ攘
ケ唯帆影是望ム而勞ナラヌマ是ヲ兵法ニ鈍兵
ト云詩ノ清人ヲ賦シ瓜期ノ人ヲ怠慢セシムル
所以ナリ若夫諸侯ノ威徳ヲ以テ号令ヲ示セハ
所謂不肅而嚴ニ士ハ日夜ニ調練シ民ハ且暮ニ

耕耨シ是所謂國家間暇ナル者ニメ是ヲ号テ逸
ト云我此逸ヲ以テ彼虜ノ万里ノ遠洋ヲ踰ルノ
勞ヲ待是所謂以逸伐勞者也黠虜何ノ畏ルハニ
足ランヤ兵法ニ曰ク無待其不来恃吾有以待之
是之謂也漂泊ヲ以テ動搖甚シク不日ニメ財力
共ニ勞レテ人心穩ナラス若シ是ヲ積ムテ数年
ナレハ黃牆ノ憂測ルヘカラス黃巢李自成何レ
ノ世カナカラシヤ利誘ノ奸モ亦防ヘカラス汪
直素卿何レノ地ニカ出サランヤ凡蚩氓ノ情飢
禽困獸ノ如シ其窘迫スルニ及ンテ獨己ヲ權ス

ル人ヲ搏噬スルノミナラス亦己ヲ養フ人ニモ
及フ夫死ハ一死ナリ餓モ亦死シ叛モ亦死ス况
ヤ擲外祀禁ノ徒此土ニ在レハ終身囹圄ニ幽死
ス彼土ニ在ルヤ一日一死ヲ脱シ半年半生ヲ保
ス朱明ノ和寇滿清ノ英賊皆是一死一生ヲ僥倖
スル徒ノ導ク所也故ニ今ノ諸侯ヲハ腹心股肱
一体トメ疑ハス是ヲ以テ他日ノ賊ヲ豫備スル
ヲ實ニ是今日急務ノ秋也夫他日ノ賊恐ルヘシ
ト蚩節制処置宜キヲ得テ不饑不寒民ヲメ死ヲ
致サシムレハ猶恐ルハニ足サルヘシ唯々夫ノ

俄羅ノ列薩淳都ノ謀策ノ如キ実ニ是一大戒惧
ナル者ナリ苟モ之ヲ防カントスルハ諸侯扞蔽
ノカニ非レハ能ハス是我カ今ノ形勢ヲ察スル
ヲ急ニスル所以也

輸贏三

恐ルヘキヲ恐ル、ヲ知サルハ勇ニ似テ勇ニ非
ス恐ルヘカラサルヲ恐ルヘシトスルハ怯ニ似
テ怯ニ非ス勇怯ノ向ハ遠智遠識ノ者ニ非レハ
勇ノ勇タルト怯ノ怯タラサルトハ得テ辨スヘ
カラス今始ク其似タル者ヲ以テ論センカ今ノ

西洋ヲ恐ル、者ハ其恐ル、ニ足サル処アルヲ
知ラス風声鶴唳ヲ聞テ陳不占ノ如ク畏死スヘ
シ其恐レサル者ハ鶻命吞棗瞽盲不畏蛇ノ類ニ
テ恐ヘキ所アルヲ知サル也兵法ニ云スマ知彼
知己百戦不危ト今ノ外夷ヲ恐ル、者彼ハ何ノ
意欲アル彼ハ何ノ伎倆アル我イツレカ長シ何
レカ短ナル彼ハ和ニ利アルカ我ハ戦ニ利アル
カラ知ラス唯我カ神回ヲ頼ミ我神風ヲ便リ修
齋誦經誓佛祈天耳ニ貝鼓ノ音ヲ聞ス目ニ旌旗
ノ影ヲ見ス己カ服スヘキ兵具ヲ辨セス己カ立

ヘキ行伍ヲ識ラス又砲声ニ驚ケハ馬モ亦奔騰
シ又風浪ニ暈スレハ舟モ亦顛覆ス是不占ノ流
ニメ未夕与ニ海防ヲ論スヘカラス其或ハ慄悍
ヲ以テ任スル者ハ亦是瞽旨ノ勇ニメ寇艦ノ堅
脆多少ヲ論セス一彈擊却ヲ上策トメ疑ハス是
亦兵道ヲ談スルニ足ラス抑且異々ヘキハ古来
擊却ノ説ナリ異船ノ動靜情実ヲ察セスメ打拂
トアルハ我ヨリ彼ノ意ヲ迎ヘ彼ヲメ激セシム
ルニ近シ且打拂ト云ハ商船漁舟ノ如ク彼ニ備
具ナケレハコソ打拂ハレモシツベシト余彼ニ

モ打拂フ器備レハ彼モ亦我カ打拂ハントスヘ
シ我ニ十貫ノ礮アレハ彼ニ百貫ノ礮アリ且我
的トスル処ハ彼カ二三艘ノ小的ニテ剝ヘ海中
ニ動搖シテ照準定ラス彼カ的トスル処ハ我海
岬十里二十里ノ大的ニメシカモ陣營迁移セス
吾恐ラクハ我彼ヲ打拂ハントスルハ却テ彼ニ打
拂ハル、道ニアラスマ凡ソ俗兵家ノ頼ム所ハ
砲ナリ然レモ砲ハ彼ヨリ傳ル器ニテ我ニ三百
年ノ鍛煉アレハ彼ニ六百年ノ鍛煉アリ況ヤ我
ハ昇乎二百年ノ翫物トナリテ故態固陋ヲ守ル

ノミ彼ハ今日戰鬥ノ実地ニ用ヒテ試驗精妙ノ
巧ヲ極ム故ニ我砲ヲ以テ彼砲ヲ撃ツハ潦水ヲ
以海水ヲ撃ツカ如シ豈ニ我下策ノ下ナル者ニ
テ瞽盲ノ勇客氣ノ銃恐クハ未タ獷獍跋扈ノ西
賊ニ当ツヘカラス吾曾テ史ヲ讀テ孫臏カ上下
駟ノ説ニ至テ驛ヲ拊テ西賊ヲ伐ヘキヲ悟ル夫
砲ト艦トハ彼カ長スル所ノ上駟ナリ我ニ於テ
ハ短ナリ下駟トス是ヲ彼ニ當ツ騎戰歩門ハ我
長スル上駟ナリ乃チ彼カ長セサル中駟ニ當ツ
弓箭ヤ長槍ヤ眉矢ヤ拳法ヤ角觥ヤ我長スル中

駟ヲ以テノカ下駟ニ當ツ然レハ則ニ駟羸テ一
駟輪ルト虽其輪ル所マタ羸ニ非スト決シ難シ
如何トナレハ彼ハ客戰ニテ水土ニ馴レスタハ
ニ海艦ヲ頼テ走路ヲ頼ミ拙速甚陷ノ銳氣ナシ
況ヤ尖峽圍礁ノ危険ニ熟セス長ク不測ノ遠洋
ニ錨ヲ置ヘカラス若夫頑夷駭虜タトヒ其微鋒
ヲ頼ミ或ハ上陸スル半歳一歳艦中ニ臥食メ土
地ヲ踏ス獨腿肉鼓脹メ短氣喘息ナルノミナラ
ス筋脉緊挛腰脚痿軟メ委走ニ自由ナラス於是
カ我ニ長スル所ノ神變妙伎ヲ以テ彼カ下駟ヲ

掩撃セハ瞬息ノ間ニ鏖殲ソ漿舫舩撞ヲ一炬ニ
屬シ匹馬隻輪ヲメ帰ラシメヌ彼ノ白黑夷ノ耳
墳ハ我長崎ノ京觀トスヘシ豈亦一大快事ナラ
スヤ然リト虽兵道ハ全勝ヲ貴ハス全勝スレハ
我怠リ彼怒ルノ銳ヲ以怠ルノ虚ヲ衝ハ越王ノ
吳ヲ亡ス所以ニメ田單ノ燕ヲ覆ヌ所以ナリ是
故ニ全勝スル後畜ヲ備ヘサレハ彼ノ一敗棄地
ノ餘燼復燃サルヲ保チ難シ抑夫ノ後畜ヲ慎ム
ハ怯ニ似テ怯ニ非ス全勝快治ヲ誇大ニスルハ
勇ニ似テ勇ニ非ス三峯ニ曰ク能柔能剛其國弥

光ト勇怯ノ間ハ必ス其人ヲ待テ而後始テ談ス
ヘキナリ

擬封編

杞憂陳人 清水太郎 ナリト云

嘉永己酉夏閏四月英吉利國賊船一隻お南無港中に入
有信伯一結庵の命とまゝに潮に又出帆せ給ふ事
加下田より浪り又上陸しありく侵掠の形とあり又大
島より薩摩へ麦と刈取中と奪ひ取る物撤去せし後下
田奥中と測量し成層の浅深とを以て其状を述べし
廣事大とされとあるに五月五日閏元一割と記有るに
下りく掃部のよりしと記ありありと記ありありと記
候とありありと記ありありと記ありありと記あり
左に記ありありと記ありありと記ありありと記あり

外夷 我邦と親親 是れ一朝夕の成るは文化の初より
 小政より其の後作轉ありしはたあるなり 是れ幼童の
 道と何れとやめたる 英夷西方南洋と出はるる来りて
 是の困るれともより同情とありきなり されを寛政以来我道
 海は黒船入るは方無と備せし大砲とて打拂ふるなり
 祖家の定めよし不設固の大神をたふすなり 原流命
 と送り来るとせし祀祭の事 奥より其の事 怒りさ
 玉へり其後文政天保度皆その口定と據り玉へり 又正リソレ
 英夷我道流人と送り来ると言はれしを信玉へり
 其の口定と破玉へり 是れ英夷とハ中人ハ 英夷と其の
 源

流人も送城と才無根の妄誕とると言志なり

是の事此の語を伊氏
氏和葉加比丹内宛

あるは昔せし幕の教よりて之を信
カヒタシ存意ありしはの事とやうなり

是を志志 江戸は又出は

北境録

より豊原と生し 我尉又及び清軍中 敵奴とて
 和儀とあるは我固と 糧供の端なり 我邦昇平言余
 赤異純其華ありしを志すなり 於是是こく 豊原と
 信海を固め 糧後又和儀と申し 軍勢と 初志ありの
 の怒り 是んと怒り 枝孫 監画者 誠志 されと 知
 兼二ッ この作 ありしは 是れその 描置たり 又こり 大什 俵 畧
 ありしは 俵更 是の 是れ 是れ 上中下の 之 是れ 試

道説紀官
鳩舌小紀

こゝろの弊ありゆく月とさばさうむく一或人博學高識の帝
又従く如く遠界是事老傾竭智力願氣不撓攻城水戰試之
實用而暗煉をこぼさう凡上の宮後為靡不擡の業あり
ゆゑあはれゆゑよき氣能光世のゆくを器械の神力と稱
ふあり我邦是事二百年士氣萎茶一兵ふと辨別する
もの極めてさきまの理を直さるも理會一水火也や
遠大の業とや志遠と下業といひはさるるを下の業といふ
とよき者今の急務一足風くその値をんはある處より伊
豆の川田ハ事ひ又小田原と迫りたる大之保原の金とや士
なるるをさき見せしめ海戦銃砲の技を習練しその節

力胆をこゝに精神一緩急の用を備ふべし治世はく治産を托
せし十方石以下船ありきたるは海軍の銃砲を築くも地形を
よむことよて何事のふも築くべし其とよあはれ實用の時を以て
と君費多しと知るべし其序は海戦の事を試みとくべし
亦といふ事又其序ハ其象の常道とよむ其れより猛獸と
ふせくるをそれる十倍以上あつてハ其節一知ると知るべし又兵
多船いふは海戦の所象を二十倍二十倍と其位は舟を保結
する陸戦の隊伍の如くは子波と船を保結し其位は舟を
船の指揮は其序は其の如くは銃砲一門や砲の在るを架成也
と接する又及んく散放せし一甲角無敵之意は六人八人と

賊る艘あり我子艘を去り下一賊人あり我万人を
出れと知へし其巻捲指揮密謀沈勇うく勝敗の理を的
らふよと耐風をよきし倭倅

機合や去るは

皆まゝ一個の破船をせしは操練節制英調よりてハ
夷賊牧智とらふもよきなりなるるありては西洋法固意械
技をなすと足る其の志理を知りあり

無学は沈没者 角山
慨する下

の人既よき整多し

角山は言者意械とあり
志理を知りあり

我邦舟車の整ふの

信整又沈弱人一車の意を異せると寸狭うく救せよ是
まうと去人のしるは是なり誠諦ハ空理なり実事又是
兩年の累及予遠知より後一くは空理の大伴又出つ

又倍

七十里
七十里

所載の船押送りと稱する走舸有り 亦反帆を拂くその

漂浪人せし目眩し船乗し殆ど嘔吐せんとし帝努力し
其の危し心胆を試むるも其く後砲力耐るるをねん
のさるを知る時と拙作あり証とん

噴沫陽侯幾尺高扁舟如葉宛飛騰自誇措大心
肝健言笑自如觀海濤

000000

000000

